

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 益田清風高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和8年5月12日(火) 13:10~15:10
- 3 開催場所 益田清風高等学校 会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した。
- 4 参加者

会 長	森本翔太郎	馬瀬建設株式会社 専務取締役 (欠席)
委 員	中村 好一	下呂市教育長
	小池 裕一郎	(株)春昇建築 代表取締役
	向野 優子	NPOみらいろ理事長
	今井 健人	下呂市萩原振興事務所長
	河村 治代	下呂看護専門学校長
	佐野 ちあき	ホテルくさかべアルメリア職員
	長尾 伴文	ぎふ夢教育応援隊
	前田 芳隆	前小坂中学校長
	伊東 良夫	育友会長
学 校 側		
	小田 正人	校長
	青木 穰	事務長
	石丸 浩国	教頭
	井田 誠	教務主任
	打保 圭史	生徒指導主事
	上田 界堂	進路指導主事
	角川 公太	特別活動部長
- 5 会議の概要(協議事項)
 - (1) 本校のスクールミッションについて
 - (2) 令和8年度学校経営計画等について
 - (3) 意見交流
 1. 学校側からの報告
 - (1) 教務部関係
 - 【「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善】と【「個別最適な学び」と「協働的な学び」のICT活用による一体的充実】を学習指導の重点とした。
 - 「地域とともにある学校づくり」を推進：学校運営協議会の皆さまをはじめとして地域の方々にご協力をお願いしながら生徒の学びの充実としたい。
 - 「ICT活用の授業実践」：生成AIをはじめとしたICTツールを活用して生徒の主体的な学びに繋げる。
 - 「授業改善」：授業評価アンケートを定期考査毎に実施する中で、授業改善に取り組む。
 - (2) 生徒指導関係
 - 服装規定の柔軟化：昨年度より体調や季節に合わせた着こなしを導入しており、2年目を迎え生

徒に定着している。特に女子生徒の靴下について、指定品以外の使用を認めたことで、生徒からは「着こなしやすくなった」と好評価を得ている。

- スマートフォンの自己管理：今年度より朝の回収を廃止し、「生徒の自己管理制」へと移行した。昼休みのみ使用可能というルールを生徒会と策定し、事前の練習期間を経て導入。現時点では、食事中の使用を控える、廊下での歩きスマホをしないとといったマナーが概ね守られており、順調な滑り出しを見せている。
- ヘルメット着用の義務化：自転車通学および部活動での移動時におけるヘルメット着用を全員に義務付けた。部活動（特に野球部やテニス部など）単位での徹底した指導もあり、目視できる範囲で9割以上の高い着用率となっている。

(3) 進路指導関係

- キャリア教育のあり方：単なる卒業後の進路先を決める「出口指導」ではなく、自分の得意なことを社会にどう活かすかという「自己の在り方・生き方」を考える支援に重点を置いている。
- 「Classi」の活用と学力向上：学習支援ソフト「Classi（クラッシー）」を活用し、単語テストや行事の振り返り、目標設定を行っている。
- 「進路実績」：昨年度は進学が3分の2、就職が3分の1という割合であった。特徴として、就職者の6割以上が地元（下呂市内等）に残る結果となっており、ふるさと教育の成果が着実に現れている。

(4) 特別活動

- 文化祭の改革：今年度は日曜日と月曜日の開催とし、日曜日に中学生を招待する計画を立てている。キッチンカーの導入（ワンコインでの販売）なども検討し、中学生に学校の魅力を直接伝える機会とする。
- 地域社会への自覚：総合的な学習の時間やLHRなどを通じ、地域社会の一員としての自覚と責任を深める支援を継続する。

2. 学校経営・広報について

- スクールミッション：「多様な学びの選択が可能な下呂市唯一の高校として地域と連携した探究的な学びを通して挑戦し続ける心と、自ら考え行動し地域社会に貢献できる力の育成を目指す学校」を承認していただいた。
- 生徒の現状：全校生徒423名のうち約83%が下呂市内出身であり、約半数が列車通学を利用している。
- 魅力発信（CCNとの連携）：ケーブルテレビ（CCN）の協力を得て、2か月に1回、学科紹介等の番組を放映予定。第1回は6月に予定されている。
- 校内環境の改善：昨年より水曜日に実施しているパン・サンドイッチ販売が好評で、ほぼ完売状態にある。また、6月中旬には校内に「アイスクリームの自販機」を設置予定であり、生徒の楽しみを増やす取り組みを進めている。

3. 委員による意見交換・質疑応答

- 小人数学習のメリット：委員より「少人数による手厚い指導（習熟度別指導など）は非常に魅力がある。もっと積極的に中学生に売り込むべき」との意見が出された。
- 生成AIの教育利用：生成AIを単なる答えを出す道具ではなく、分からない部分を尋ねる「伴走者」として位置づける。情報の真偽を吟味する力（ハルシネーションへの対策）を養いつつ、ICTを主体的な学習ツールとして効果的に活用させていく。
- 地域・OBの活用：検定試験対策の特別講座や、古くなっているホームページの改修などに、地域の専門家やOBの力を借りるべきとの提案があった。
- 防災と地域連携：昨年度実施した中学生参加型の防災訓練を継続しつつ、今後は「ワクワクするイベント」や「青春」といった要素を掛け合わせた、より生徒が主体的に取り組める企画を検

討する。

- 不登校支援：現在、1年生に数名の不登校傾向の生徒がいるが、個別に支援中である。地域のフリースペース「フラット」との連携についても情報提供が行われた。
- 大学連携：星城大学等との連携を具体化し、大学の先生による指導や研究室訪問などを通じた探究学習の深化を目指す。

4. 結び

生徒一人ひとりの力が最大の魅力であり、小さな取り組みを積み重ねることで学校を盛り上げてきたいとの方針が示された。次回の協議会は11月頃を予定。

6 会議のまとめ

令和8年度第1回学校運営協議会を開催し、スクールミッションおよび学校経営計画について、すべての委員の皆様からご理解とご承認をいただきました。

協議では、下呂市唯一の高校として魅力ある学校づくりを推進する方策について、活発な意見交換が行われました。特に今年度は、高校と市内中学校との交流や共同活動を通じて、本校の特色や魅力を中学生や保護者、地域へ積極的に発信していく方針を前面に打ち出していくことが確認されました。また、生徒が主体となって地域に貢献できる力を育成することについて、委員間で共通認識が図られました。

さらに、今年度は炊き出し訓練についても見直しを行い、市内中学校が参画できる形での実施に向けて検討していくことが議論されました。